

令和7年度 宮崎県立福島高等学校 学校評価

経営ビジョン（目指す学校像）

「郷土を愛し、夢や志の実現に向けて、挑戦する人を育む学校」

中高連携による6年間の一貫した教育活動を通じて、グローバル社会を生き抜く確かな学力と豊かな人間力を身につけ、郷土を愛し、夢や志に向けて努力する逞しい人材を育成する。

- 生徒一人ひとりを大切に、熱心で丁寧な指導により、生徒の進路を実現する学校
- いじめや差別がなく、生徒が「私は福高で大切にされている」と実感できる学校
- 小中学校や地域との連携により、充実した教育を行い、魅力と活力に溢れる学校生徒一人ひとりを大切に、熱心で丁寧な指導により、生徒の進路を実現する学校

[学校関係者による評価]

- ・ 「自己評価」は、本校職員による自己評価の平均 [() 内は昨年度の自己評価] ※ (4段階評価：4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する)
- ・ 「学校自己評価」は、本校職員による自己評価の主な意見を記載 (「○」は成果、「●」は課題)

	重点目標	自己評価	学校自己評価 ○：成果・期待通り ●：課題・要検討	学校関係者による評価
学 力 の 向 上	基礎学力の定着	2. 8 (2. 8)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 反復練習や小テストを通して、英語の基礎を少し定着することができた。 ○ 単元テストを有効活用することにより基礎力が向上している。 ○ 夕講座を積極的に受講させたことで、2学期末定期考査では30点未満の生徒が大幅に減少した。 ● 家庭学習の習慣づけができていない。 ● 時間がかかったとしても、高校入学後から丁寧に基礎を積み上げる必要がある。 ● 学力差が大きく、家庭学習などの習慣が身につけていない生徒もいるので、授業内容や家庭学習の適切な分量を見定めるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習状況に応じた指導がなされており、評価できる。基礎学力の定着や家庭学習の習慣づけについては、小中高全体の課題であり、小中高一貫して取り組むべきであると考えます。 ・ 家庭学習の定着は小中高一貫教育の中でも話題として取り上げ、何らかの手立てを打つ必要があると感じる。 ・ 学校での学習に加え、自宅学習を行うことが進学や就職に向けて必要な知識を得るための大切なプロセスであることを認識してもらえ、取り組むことが重要だと感じる。
	授業力の向上	3. 2 (3. 2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ロイロノートなどICTを活用して生徒の学びを深める授業作りができています。また、教科横断的な学びに関する公開授業等を通して、教科の垣根を越えた学びを提供できた。 ○ 教科横断的な取組を実施し、新たな視点を持つことができた。 ○ ICTの活用により、より考える授業を実施することができた。 ● テーマを設定して継続した授業改善への取組をすることも必要である。 ● 多様な生徒に配慮した授業の難しさを感じる。 ● 教科内での研修の更なる充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善を含む教師の授業力向上のための公開授業や教科横断的な学びの取り組みは大変評価できる。今後もICT活用等の研修を通して授業力向上や学力向上を図ってほしい。 ・ ICTを活用した授業や横断的な授業により充実した学びが展開されているものと認識しています。生徒が作成した動画等を拝見し、感心しました。
	進路指導の充実	3. 6 (3. 4)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進学から就職まで幅広い出口に対応することができている。 ○ 進路指導部が計画した各種行事に、生徒が予想以上に関心を示し、意欲を持って各種説明会等に参加することができた。 ○ 今年度も国公立大学の推薦入試合格者を輩出することができた。 ● 生徒自身が上級学校や企業に積極的に調べたりする機会が少ない。 ● 安易な進路選択をする生徒が多く、進路意識の低い生徒への対策が課題である。 ● 「自分の学力以上(高い)の進路先(目標)」を目指す意識が弱いので、勉強をしているふりのような感じの生徒が多いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変であると思うが個々の学力や興味関心に応じたきめ細かな指導をお願いしたい。 ・ 生徒数が少ない中で、国公立大学の合格者を輩出できていることは、先生方のきめ細かなサポートのおかげだと思います。この実績をもとに、入学者数が増えるとよいと思います。 ・ キャリア教育の充実と連動して取り組む必要性を感じます。 ・ 高校での授業実践を中学校と共有することで、学びの連続性を図ることが必要である。

読書活動の推進	3. 3 (2. 8)	<p>○N I Eの活動で、生徒の読む力、アウトプットの力が育成できている。</p> <p>○朝の10分間読書に落ち着いた雰囲気を取り組んでいる。</p> <p>○少しずつではあるが、本を読む習慣が身につけてきている。</p> <p>●図書館H R等を実施する機会が少なく、図書館の利用が特定の生徒に限られている。</p> <p>●新刊図書を導入・周知だけでなく、図書閲覧室の配架・展示のリニューアル等、さらなるアピールが必要である。</p> <p>●読書好きな生徒や、図書委員を放課後集めて「輪読会」や「ビブリオバトル」を行うこともよいのではないかと感じる。</p>	<p>・本に触れる機会を設定し、少しずつではあるが、その成果が表れていることは評価できる。新たな取り組みも考えられているようなので、ぜひ取り組んでほしい。</p> <p>・読書の習慣は幼少期に身につける必要がある。小中高連携した取組を推進するとよいのではないかと感じる。</p> <p>・読解力は学力向上の基礎であることから、少しずつでも読書量を増やし、力をつけてほしいと感じます。</p> <p>・中学校も同様である。読書環境の再構築が必要ではないかと感じる。</p>
---------	----------------	--	---

重点目標	自己評価	学校自己評価 ○：成果・期待通り ●：課題・要検討	学校関係者による評価
学力を補完する事項の充実	3. 2 (3. 0)	<p>○けやきタイムの時間を有効に使えるようになった。</p> <p>○夕講座に1年生が積極的に参加する姿が見られ、充実した取組の土台ができ始めた。</p> <p>○夕講座で、演習の時間を取り入れることにより、力をつけることができている。</p> <p>●補充指導が必要な生徒が多すぎることが課題である。</p> <p>●行事等により夕講座を実施できないことも多かった。</p>	<p>・放課後等の指導もされており、頭が下がる思いである。また、その成果も現れているとのことなので、ぜひ今後も取り組んでほしい。</p> <p>・夕講座の取組が家庭学習の定着とつながるとよい。</p>
人間力の向上	3. 5 (3. 3)	<p>○進路ガイダンスやインターンシップ等を通して、自分の進路を考えたり、将来について考えたりする機会ができている。</p> <p>○インターンシップ、地域創生学、地域創生探究等で地域の方々と接することにより、人間力の向上が図れている。</p> <p>●3年生の中にも自己分析、進路先分析が不十分で、志望理由や履歴書が書けない生徒がいる。</p> <p>●キャリア教育を実施するための時間の確保が課題である。</p>	<p>・自己分析が不十分な生徒においては第三者からの評価やアドバイスが必要である。</p> <p>・キャリア教育の充実が確かな学力の定着につながるものと考えている。今後もインターンシップや地域創生学等の授業の充実を図ってほしい。</p> <p>・インターンシップの際に受け入れ職員の経験談を話してもらおう等のオリエンテーションの時間をしたらどうでしょうか。</p>
基本的な生活習慣の確立	3. 1 (2. 9)	<p>○1年生の遅刻、欠席は非常に少なかった。幼い言動も時には見られるが、徐々に減りつつある。</p> <p>○学校全体を通して、遅刻が昨年度に比べて減少した。</p> <p>●服装の乱れがある生徒が見られる。</p> <p>●遅刻や容儀がルーズである生徒が固定化している。</p> <p>●長期休業明けの欠席が多い。</p>	<p>・基本的な生活習慣については、小中での積み上げや保護者との連携が不可欠である。小中での積み上げということに関しては高校生の状況を小中学校の職員にも伝えてもらえると、そのことを意識した指導もできるのではないかと考える。</p> <p>・遅刻や欠席が少ないということは学校での活動が楽しいと感じているということではないでしょうか。</p> <p>・校則の見直し等も中高連携して取り組むと生徒の定着も向上するのではないかと感じる。</p>
部活動の活性化	2. 8 (2. 7)	<p>○運動部だけでなく、文化部も大会で入賞することができ、部活動の活性化につながっている。</p> <p>○部員数が少ないながらも各部活動の活動を維持することができている。</p> <p>●部活動の加入率が低く、団体競技においては他校との連合チームになるため、練習計画を立てづらい状況にある。</p> <p>●部員の少ない部活動の存続が危ぶまれる。</p>	<p>・中学校の部活動地域移行が進められていることを考えると更に減少することが考えられる。部活動の在り方を市教育委員会、中学校、高校、PTA、各部活動指導者で連携して考える必要がある。</p> <p>・入学者数が年々減少している中で部活動の存続、単独での大会出場が難しくなっている中、熱心に指導して下さっている先生方には頭が下がる思いである。</p> <p>・高校のみならず中学校も部活動の存続は厳しい状況です。指導される先生方も大変苦勞されていることと思います。</p> <p>・合同練習を高校側から投げかけてもらえるとうり難しい。</p>
学年指導の充実	3. 4 (3. 3)	<p>○学年団の先生を中心に、各学年の実態に応じた諸活動を通して自己肯定感を高め、相手の意見を尊重する姿勢が出来上がりつつある。</p> <p>●生徒が積極的に動いていないように感じる。</p>	<p>・生徒の実態を把握した上で、学年団の先生が協力し合って活動ができており、評価できる。</p> <p>・学年によりその雰囲気が違うと感じるが、それぞれの学年に応じた対応がされているのではと感じる。</p>

地域・保護者・中学校等との連携	受検生の確保	2. 9 (2. 7)	<p>○福島高校応援シンポジウムを実施していただき、保護者や地域の方が福島高校を応援しようと動いていただいたことがありがたかった。</p> <p>○オープンキャンパス等で本校に興味を持つ生徒が増えたのを感じる。</p> <p>●串間中への乗り入れ授業や学校説明会の実施が、受検生確保につながっていない。</p> <p>●中学校保護者への積極的な働きかけが必要ではないかと考える。噂だけが先走って本来の姿を分かってもらえていないと思う。</p>	<p>・噂を良いものに変える何かしらの絶対的な結果が、全体的な教育の底上げが必要である。</p> <p>・中学校との連携の深化を引き続き取り組んでいくことが重要だと思います。生徒、保護者両者へのアプローチが重要だと考えます。</p>
	小中高連携及び地域交流の促進	3. 3 (3. 2)	<p>○小学生対象のキャリアワークショップやかるた大会、グラウンドゴルフ大会や野生馬ガイド養成講座など、各方面と連携しながら地域と一緒に活動することができている。</p> <p>○地域創生学を通して地域企業との交流が持てた。</p> <p>●地域との交流の機会は多いが、小中高生がお互いに交流する機会が少ない。福島高校生が積極的に小中学生と関わって、福島高校のことを知ってもらう必要がある。</p> <p>●各種交流が、本校への進学者数増加に直接的につながっていないように感じる。</p>	<p>・小中学校や地域の要請を積極的に受け入れる姿勢を常に持っており、その方針は学校職員にも伝わっているものと考えている。</p> <p>・小中学生との交流を増やすために、教員同士の交流を増やすことも必要なのではないでしょうか。</p> <p>・中学生との語り場等の実施を検討してはどうでしょうか。</p> <p>・高校乗り入れの効果も検証していただきたい。</p>
	広報活動の充実	3. 6 (3.5)	<p>○SNS での情報発信や PTA 新聞など、充実した内容になっている。</p> <p>○マスコットキャラクターの槻ちゃんが今後、地域との架け橋になっていくことが期待される。</p> <p>○インスタグラムのフォロワーが 2000 名を突破した。</p> <p>●SNS を利用しない世帯（小さい子供や高齢者など）にどのように情報発信していくか。</p> <p>●広報活動が生徒の成長や学校の発展、地域や保護者からの支援に結びついているのか効果がよく分からない。</p>	<p>・SNS により活動が見える化しているの、引き続き継続してほしい。</p> <p>・槻ちゃんはとても楽しみやすいキャラクターなので福高の PR に活用できると考える。SNS による広報については、時々視聴しているが、福高のよさを伝えるものになっていると思う。</p> <p>・素晴らしい広報活動を行っていると思います。インスタのフォロワーがもっと増えるといいなと思います。</p> <p>・中学校内にある掲示板の活用があまりなされていない。</p>
	学校施設の地域への開放	3. 2 (3.0)	<p>●現在は体育館だけしか開放できていないのではないかと。</p> <p>●これからはラボ室等を開放していきたい。</p>	<p>・開放することで教員の負担が増大しない仕組み作りを考えてほしい。</p> <p>・管理上開放できない場所もあると思うが、施設の開放等により福島高校を身近に感じてもらえるのではないかと。今後、積極的な受け入れを考えてほしい。</p>
保健・環境の充実	命を大切にす教育の推進	3. 5 (3.2)	<p>○薬物乱用防止教室や健康教育講演会、性教育講話等の各種行事を通して、自分のこととして生徒が考えることができています。</p> <p>○SPS の取組により充実した活動を行うことができた。</p>	<p>・高校生の時期は多感な時期でもあるので、今後も全体的な指導はもちろん、個々の生徒に悩みや不安に寄り添った指導をお願いしたい。</p> <p>・先日の市民救助の報道等を見ると、確実に生徒に身につけているように感じる。</p> <p>・本年度の SPS 活動を継続、発展させていきたい。</p>
	環境美化・環境整備の充実	3. 2 (3.2)	<p>○美化委員が中心となって花壇の整備を行うことができた。</p> <p>○車椅子の生徒にも対応できるよう学校のバリアフリー化が進んだ。</p> <p>●生徒が持ち込んだ弁当のゴミやペットボトルが廊下や教室に放置されていることがある。自分のゴミは自分で片付けるという意識が低い。</p> <p>●清掃用具入れや補助教室の蛍光灯など、不整備箇所が存在する。</p>	<p>・不整備箇所については、定期的に点検し、整備する必要がある。</p> <p>・生徒を中心とした花壇の整備や学校のバリアフリー化に取り組んでいて評価できる。</p> <p>・施設が古いにもかかわらず、訪問するときれいに清掃されていることが分かります。引き続き取り組みを進めていただければと思います。</p>
	防災教育の充実	3. 8 (3. 3)	<p>○避難訓練だけでなく、SPS 認証に向けて、避難所運営訓練や防災教育講演会、宮城県実地研修など、防災意識を高める活動を多く行うことができた。</p> <p>○防災士資格の取得が進んだ。</p> <p>●全校生徒で取り組む活動が避難訓練と講演会に限られてしまった。</p> <p>●避難訓練等の方法を工夫してもよいのではないかと。</p>	<p>・防災士の資格取得などの取り組みがなされており、評価できる。SPS 認証に向けての取り組みが確実に実施され、評価されることを期待する。</p> <p>・防災士ネットワークとの連携により防災意識の高まりが地域に波及していく取組も期待しています。</p>